

日本農業遺産



琵琶湖システム

木・里・湖 に育まれる 漁業 と 農業 が織りなす

相互に深く関わりあい
豊かなめぐみをもたらしてきた
「琵琶湖と共生する農林水産業」
(琵琶湖システム)を未来へ!

漁業

伝統的な「待ちの漁法」



千年以上の歴史を持つエリ漁は、ツボと呼ばれる部分に魚が入ってくるのを待つて獲ります。必要な量だけを捕獲できる漁法です。



林業

水源林の保全



山に木を植えて育てることが洪水や濁水を防ぐことに役立っているほか、川に上って産卵する湖魚たちを守ることもつながっています。

湖魚がやってくる「魚のゆりかご水田」



湖魚が産卵にやってくる



農業

環境こだわり農業



琵琶湖の水質や生態系を守るため、排水を管理し農業や化学肥料を減らして作られた「環境こだわり農産物」。安全・安心な農産物として販売されています。

文化

伝統的な食文化とお祭り

湖魚をご飯に漬け込んで発酵させる保存食「なれずし」は、贈り物や神社のお供えにも使われてきました。



湖辺のヨシ帯保全



伝統的に様々な生活資材に用いられてきた湖辺のヨシ帯保全も、水質や生態系の維持に大きな役割を果たしています。

“琵琶湖システム”は、千年以上に渡り継承されてきたもので

2019年2月に「日本農業遺産」に認定されました。

「世界農業遺産」は、世界的に重要な、未来に継承すべき持続的な農山漁村の営みを、国連食糧農業機関 (FAO) が認定する仕組みです。「日本農業遺産」は農林水産省が認定する国内版の制度です。



「琵琶湖システム」についての詳しい情報は、こちらのホームページをご覧ください ▶

